

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1470901438
法人名	医療法人 寛栄会
事業所名	グループホームカメリア弐番館
訪問調査日	平成26年3月25日
評価確定日	平成26年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 25 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901438	事業の開始年月日	平成17年12月10日	
		指定年月日	平成17年12月1日	
法人名	医療法人 寛栄会			
事業所名	グループホーム カメリア式番館			
所在地	(〒223-0057)			
	横浜市港北区新羽町4092-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成26年3月15日	評価結果 市町村受理日	平成26年7月23日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

カメリア式番館は竹林や林に囲まれた、緑豊かな環境の中に立地し、四季を通じて季節を肌で感じる事ができる。天気の良い日には気分転換と運動を兼ねて散歩に出かけ、体力低下予防と共に地域社会と触れ合う機会を設けている。毎日の生活に関わる事すべて、入居者が主体的に取り組めるよう援助している。個人差のある身体能力の中でひとり一人の出来ること、やりたい事を実現できる場を生活の中で提供し、生き甲斐や達成感を感じる事が出来るように力を注いでいる。ホームで行なう誕生会や、クリスマス会のほか、同法人で行われるボランティアによる催しへの参加や地域の催しへの参加など、楽しみも生活の中に取り入れている。また、ホームの入居者については同法人の医師・看護師・管理栄養士・リハビリ担当者と相談し合えるサポート体制がある。年々変化して行く入居者の状態に寄り添いながら、その方の可能性・残存能力を活かし、その方にとってのより良い生活を念頭において支援をしていきたいと考えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成26年3月25日	評価機関 評価決定日	平成26年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●グループホームカメリア式番館は、港北区新羽町に所在する医療法人寛栄会の運営です。法人は、介護老人保健施設・診療所・居宅支援センター・高齢者グループホーム(2)等、多くの福祉事業を展開しています。地理的には、横浜市営地下鉄新羽駅より徒歩15分の道のりで、周辺の環境は、竹林や畑に囲まれた閑静な立地です。春には梅や桜で花見が楽しめる長閑な環境の中に、平屋建て、ゆったりとしたスペースのカメリア式番館があります。●式番館では入居者と触れ合う場を多くする事を大事に考え、個性豊かな関わりが出来るよう、ご家族との交流も密にし、利用者を共に支え合う関係強化に努めています。地域との繋がりでは、災害時協力の他、祭りなどの行事参加や散歩時の屋外活動で挨拶を交わす等、ホームを良く知ってもらい、情報交換が出来る関係作りに努めています。

●経営母体が医療法人である事から、ホームでは入居者の認知症の進行を緩和する取り組みとして、定期的に専門員による音楽療法を採り入れ、利用者が楽しみながら健康維持ができるよう取り組んでいます。また、日々の一般健康管理でも、同法人の協力医カメリア診療所による定期診療と医療連携看護師による健康チェックと緊急時の対応もあり、適切な医療支援が行われています。●介護計画は、計画を最も適した物とする為、カンファレンスで、職員がそれぞれの日常生活の様子観察に基づき、意見を述べ合い、ご家族の意見も加え、計画作成者との話し合いで、その人の持つ能力が充分発揮できる計画を立案しています。また、プランの適正可否確認の為、日々観察を記録し、モニタリング評価を行っています。●食事では、出来る人に参加してもらい、管理栄養士のレシピに基づき、近くの商店から食材調達をし、利用者のリクエストも交えて調理を行ない、利用者のペースで食事が行われています。また、誕生日にはケーキなどを用意し、年に数回行う外食も交え、楽しみのある食事支援が行われています。●日々の支援では、その人に合わせたトイレ誘導を行う事により、失禁予防につなげ、自立排泄を促すよう適切な支援が行われています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム カメリア式番館
ユニット名	A棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目に付くよう玄関に掲示されている。理念に基きホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係作りに努めている。入居者ひとり一人の個性を大切にされたサービスを行っている。	事業所理念は、「ご入居様の意思を尊重し、充実した生活を支援します。家庭的なぬくもりを大切にしながら楽しい生活空間を創ります。」「ご家族や地域の皆様とのふれあいを大切に、開かれたホームづくりに努めます。」と法人方針を職員・外来者の目に付くようホーム内に掲げ、ミーティング時などに話題にして共有化に努め、全職員で理解しています。利用者が気持ちよく生活が出来るよう個性を大切に、理念に添い、自立に向けた日々の支援に努めています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大竹町内会に加入しており、町内会の運動会やお祭りなど地域の催しには積極的に参加している。散歩のときなどにも積極的に挨拶を行い、地域に馴染む努力をしている。	大竹町内会に加入していて、地域の方々の協力を得、町内会の運動会や夏祭り、町で行われるひな祭りに「つるし雛」を出品して参加するなど、諸行事でも交流し、徐々に「カメラアの認知度」も高めています。また、利用者の散歩時に近所の方々と挨拶をする等、日常的な交流を行い、地域と馴染むよう努めています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者や認知症に対する相談がしやすいよう日頃より地域住民の方とのコミュニケーションに努めている。地域の中学生の福祉体験の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回テーマを設けて行っている。ホームの事をよりよく知っていただき、意見を聞き取る事のできる場として理解を深めあえるよう努めている。	運営推進会議は、同法人のカメラア壱番館と合同で、3ヶ月に1回開催し、利用者・ご家族代表・連合及び町内会会長・包括支援センター所長・社会福祉協議会会長&事務局長・連合町内会民生、児童委員・大家・医師・看護師・本部長・ホーム関係者等の参加で毎回テーマを設けて実施し、ホームの活動状況と今後の活動予定等を報告し、意見を頂くと共に、ホームの考え方なども話し合って理解を深める機会となっています。結果は、会議録で関係者と職員に報告し、サービス向上に活かしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政よりFAXや通知で情報提供を受けている。求められるアンケートには回答しており、行政主催の研修には、積極的に参加している。	区のグループホーム連絡協議会の案内により研修会に参加しています。また、区の担当者には要介護認定更新手続きを家族に変わって手伝う際などに事業所の状況を説明しています。区の集団指導や事業所責任者への説明会で情報を得ています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間を通して当該研修を行っている。日中は玄関の施錠はしておらず、外出願望のある入居者には可能な限り外出できるよう援助している。否定をしないケアに努め心理的拘束感を持たれないよう努めている。	運営規定12条・契約書6条に、「生命及び身体保護の為やむを得ない場合を除き身体拘束は行わない」とうたい、また、止む無く行う場合の手続きも定め、全職員が研修を通じ学び、共通理解をして拘束の無い支援が行われています。日中の玄関施錠はしていません。（外出願望のある入居者の対応では可能な限り外出できるように支援し、否定の無いケアに努めています）	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会に参加し、権利擁護、虐待、個人情報、身体拘束などの知識を高めている。家族とは、積極的に会話をし、外泊時の様子の聞き取りや、病気の理解について説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内勉強会に参加し、権利擁護、虐待、個人情報、身体拘束などの知識を高めている。ホームにはあんしんセンターを利用している人や、後見人制度を活用している入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時には重要事項説明書や契約書の内容を一つ一つ解りやすい表現に言い換えながら説明し理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の申し立てを、ホーム管理者の他、横浜市の苦情受付連絡先を契約書に記載している。面会時には積極的に声掛けを行い話し易い雰囲気作りに努めている。	重要事項説明書9、運営規定13条、契約書8条に、苦情受付窓口とその対応を明記して、契約時に説明しています。運営推進会議時や、ご家族の来訪時に職員から積極的に声掛けをし、ホームでの暮らしぶりを伝え、意見、要望等を伺っています。意見、提案、苦情は、会議で検討の上、運営に反映させるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロアー会議を行い、業務改善についての話し合いや入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。	管理者は定期的にフロア会議を行い、業務改善についての話し合いや、入居者に対する関わり方などの話し合いを行い、職員の意見吸収に努めています。また、管理者と職員間では、時間外であっても職員の提案や相談を受ける体制があります。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月2回法人内各部署の代表者による会議で、それぞれの部署の状況を情報交換できる場がある。また、法人本部には常時相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修・隔月の勉強会で自己研鑽に努めている。また、各自キャリアを自覚し、後輩へ指導する事を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議の委員として、地域の同業者と交流する機会を設けている。同法人のグループホームとも情報交換を積極的に行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず本人と会う機会を持ち、毎日の過し方等の聞き取りを行っている。また、ホームの生活を伝える事により、より安心感を得られるように努めている。ホームには体験入居制度があり、本人がホームの生活を体感できる期間がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する際は、本人及び家族にホームを見学していただき、その上で家族が困っている事に耳を傾け、安心して頂けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方が生活していくうえでどのような支援が必要なのか、また、家族が何を求めているのかを考慮し、当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているのかを考え、必要に応じて他種機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む中で、（身支度・入浴・掃除・食事の支度等）出来ることは本人に行っていただき、職員は足りない所をサポートするような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や、行事、外出・外泊など家族にも積極的参加して頂き、本人を支援する輪作りの努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、これまで本人が生活してきた馴染みの物を持ち込みいただき、生活空間の中に取り入れている。家族や友人との面会及び外出も推奨している。	本人の馴染みの場所やこれまでの人間関係の把握は、日頃の会話やご家族の情報等で把握しています。手紙や電話取次ぎ・知人の来所面会では、本人・ご家族の了解の下で支援を行い、ホームとしても積極的に推奨しています。また、思い出の場所訪問なども家族の協力でお墓参り等の支援を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場面で、散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わり合える時間を設定している。入居者同士で上手くコミュニケーションが取れない場合は職員が間に入り、よりよい関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の郵便物には一筆添えるなどして、今までの関係を長く継続できるような関係作りに配慮している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の希望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい物行きたい所など、日々の会話から聞き取る努力をしている。	本人の希望や思いの把握は、日頃の会話の中から直接聞き取りをしています。但し、意思表示の難しい方には、仕種や表情からの推察と、ご家族からの情報等で把握し、職員間で共有の上、介護プランにも反映しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の情報として、生活歴の聞き取りをしており、人生の歩みを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活記録と申し送りで、入居者の一日の様子を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者及び、家族からの要望や職員からの聞き取りと共に、ひとり一人の適性にあったプランを作成実行している。支援経過の検討を行い常に入居者にとって適正なプランなのかを検討している。多数の職員が集まるフロア会議で状況確認を行い、職員個々の意見をサービス内容に反映させている。	介護計画の見直しは6ヶ月毎に、ご家族の希望・要望なども聞き取りながら行っています。また、変化で必要性が生じた場合にも都度、見直しています。計画を最も適した内容とする為、月1回のアセスメントで、職員が入居者個々の日常生活の様子観察に基づき、意見を述べ合って、ご家族の意見も加え、計画作成担当者との話し合いで、介護計画を立案しています。また、適正なプランへの確認の為、日々の観察記録に基づき、月1回のモニタリングで判定して実行しています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子や夜間の様子を記録に残し、特記事項については申し送るようにしている。サービスの経過を話し合い、その方に合った取り組みを検討している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ職員や、管理栄養士に相談し、リハビリの方法や、食事摂取困難な方への対応の参考にしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーマーケットやコンビニ・美容室などを利用する為、本人と共に外出したり、自然環境豊かな中での散歩が楽しめるよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行っている。入居後は、月1回、カメラ診療所受診で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行っている。	入居時に、本人、ご家族の意見を尊重し、希望のかかりつけ医が決められています。現状は、月一回のカメラ診療所の受診で健康管理が行われており、全ての方が受診しています。協力医療機関（医療連携）、カメラ診療所（内科・心療内科）・歯科クリニックの定期診療が行われ、また、カメラ診療所の看護師による休日・夜間などの緊急時相談・指導の対応もあり、適切な医療支援が行われています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内事業所との医療連携を行っており、医療連携看護師による、定期的な健康管理を行っている。入居者の健康管理については、何時でも相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を家族と一緒に病院関係者に伝えている。また退院が近くなってきたときには、家族の許可を取り、病院関係者より入院中の様子や退院後の注意事項の聞き取りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については必要に応じて、説明を行っている。H22年4月に緩和ケアの訪問医療を受けている入居者の看取りを行った。	終末期対応については必要に応じて主治医、ホーム、家族を含めて、その人の意思を尊重した、繰り返しての話し合いを行い、ご本人やご家族にとって最良の選択肢となるよう検討することを全職員で共有されています。(緩和ケアの訪問医療を受けている入居者の看取りを行った実績があります)	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内勉強会に参加し、急変時の対応に付いて知識を高めている。勉強会ではAED使用方法や、救急蘇生法の実践を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽出張所協力の下、年2回の防災訓練を行なっている。訓練では地域の方・入居者も参加し、通報・消火・避難誘導の訓練を行なっている。	ホームでは非常時災害(火災・風水害・地震)に備える為に、「定期的な避難、救出、その他必要訓練を行う」と運営規定15条・重要事項10に定め、規定に基づき災害時通報連絡網の整備に加え、港北消防署新羽出張所指導の下、夜間想定で2回の火災避難訓練を利用者、地域の方の参加を得て、実施しています。更に、抜き打ち訓練も行ない、ホームでは避難体制を整え、設備では、スプリンクラー・誘導灯・自動火災報知機を備え、各居室のカーテンは防炎性の物を使用し、災害時対応をしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとり一人の人格を尊重した対応には常日頃から、フロア会議申し送り等を通じ職員の言葉遣いや接し方について細心の注意を払っている。	運営方針に、「入居者のプライバシーを保ち、意思、人格を尊重し、尊厳を維持する支援を行なう」事を説明し、一人ひとりの人格を尊重する事を謳い、全職員で共通理解しています。親しみに加え、人格を尊重した対応や、トイレ誘導の声掛けもさり気なく行ない、他の人に気付かれぬよう配慮しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行うときには本人の要望に耳を傾け、本人の決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示し、選んでいただくなどの工夫をしている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをするときには、気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声かけを心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子から、その方の好む色や組み合わせを把握し、日常の洋服選びでは、気持ちよく過せる着回しを提案している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは入居者と職員一緒に行っている。基本の献立はあるが、個別に好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が出来る様配慮している。	食事作りをされる入居者には、下ごしらえや下膳、食器洗いなどに参加して頂いています。材料は管理栄養士のレシピに基づき、近隣のスーパーに行き買い物をします。調理では、個々の好みや禁止食に配慮を行い、職員と入居者が同じテーブルにつき、入居者のペースで談笑しながら食事が行われています。また、誕生日にはケーキや希望メニューを用意し、年数回行なわれる外食等も交え、楽しみのある食事支援が行われています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を取りにくい方には好みの飲み物を提供したり、少量を数回に分けて勧めている。食事量の少ない方には声かけや介助を行い、食間におやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な方には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や申し送りで排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。必要な方には昼夜、トイレの声かけを行い失禁予防に努めている。	「排泄チェック表」で一人ひとりの排泄パターンを全職員で把握して、個々に合わせたトイレ誘導を行う事で、自立排泄を促し、失禁予防にもつなげ、適切な支援が行われています。排泄を失敗された場合でも、他の人に気付かれないう配慮しています。また、夜間においても睡眠時間を妨げ無い事を前提に、声かけで失禁予防と自立排泄への支援を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	粉末植物繊維の提供や水分補給・冷たい牛乳の摂取など、その方に合った方法を提供している。運動の足りない方には散歩を促している。それでも改善しない方には医師に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	浴室や脱衣所の温度に気を配っている。入浴時間については、入居者の希望にできるだけ添えるようにしている。	入浴することで、清潔保持の他、打ち身・傷等の発見、体調変化などが把握出来る事から、入浴はお薦めをしていますが、しかし無理強いする事なく、本人の意向を確かめながら希望に添った入浴が出来る様に心掛け、週2～3回バイタルチェックと共に脱衣場や浴室温度にも気を配り、ゆったり入浴が出来る支援が行われています。入浴が好きでない方には、タイミングを見計らった声かけで促しています。また季節には、菖蒲湯や柚子湯などで楽しめる工夫もしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調には気を配り、就寝しやすい温度を心がけている。また、リビングで皆様と過ごす時、自室で一人で過ごす時を自由に選択する事が出来る環境作りを行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より薬が処方された時は、薬の内容を申し送り、職員へ効用を確認するようにしている。服薬チェック表への記入を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会やクリスマス会等、催事行事を行なっている。また縫い物が好きな人には針仕事を、家事の得意な方には台所仕事を行っていただいている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下予防と共に季節を実感する機会を提供している。入居者の希望する外出先が実現困難な場所の時は家族に協力をお願いしている。	天気の良い日には散歩に出て、身体機能低下の予防と外気や季節を楽しむように心がけ、支援が行われています。出たがらない方も居られますが、日々の関わりの中からお誘いして車椅子の方にも外に出られるよう支援を心掛けています。また、希望される外出先によっては、ご家族とも相談しながら計画し、季節感と共に外気に触れる機会を設け、外出の支援が行われています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的にお預かりしているが、自己管理を希望されている方には家族と相談の上、幾らか所持して、買い物の際には自分でレジの支払いを行なっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの郵便物は速やかにご本人に渡している。家族と本人の希望で携帯電話を所持している入居者がいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝と昼とに掃除を行い清潔の維持に努めている。カーテンの活用や、夏はよしずを利用し、時間や気候に即した外光管理をお行っている。	中庭を中心に平屋2棟が並ぶ形で作られており、広々とした印象です。ホームの畑を見渡せるウッドデッキでは、日光浴を楽しむことも出来ます。両ユニット共、リビングの左右に居室が並ぶレイアウトで、ホーム内の掃除は行き届き不快音や異臭も無く、くつろげる空間作りがされています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブル椅子の他、ソファがあり、入居者が思い思いに過している。共有部分でも一人になる場があり、自由に過している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器や家具、家族写真など持込していただき今までの生活との繋がりを身近に感じる事ができるように配慮している。	各居室には備え付けのクローゼット・空調が設備されています。（空調管理は職員によって行われています）それぞれに使い慣れた思い出の品が持ち込まれて、食器、鏡、椅子、ベットと共に、ぬいぐるみ、仏壇等が思い思いに配置され、家族写真や趣味の自作品等が飾られ、一人ひとり、想いの設えで自分らしい生活拠点が作られています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手摺が設置され、入居者が一人で安全に生活出来るようにしてある。ADLによっては職員が歩行の介助を行っている。		

事業所名	グループホーム カメリア式番館
ユニット名	B棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目に付くよう玄関に掲示されている。理念に基きホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係作りに努めている。入居者ひとり一人の個性を大切にサービスを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大竹町内会に加入しており、町内会の運動会やお祭りなど地域の催しには積極的に参加している。散歩のときなどにも積極的に挨拶を行い、地域に馴染む努力をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者や認知症に対する相談がしやすいよう日頃より地域住民の方とのコミュニケーションに努めている。地域の中学生の福祉体験の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回テーマを設けて行っている。ホームの事をよりよく知っていただき、意見を聞き取る事のできる場として理解を深めあえるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政よりFAXや通知で情報提供を受けている。求められるアンケートには回答しており、行政主催の研修には、積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間を通して当該研修を行っている。日中は玄関の施錠はしておらず、外出願望のある入居者には可能な限り外出できるよう援助している。否定をしないケアに努め心理的拘束感を持たれないよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会に参加し、権利擁護、虐待、個人情報、身体拘束などの知識を高めている。家族とは、積極的に会話を行い、外泊時の様子の聞き取りや、病気の理解について説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内勉強会に参加し、権利擁護、虐待、個人情報、身体拘束などの知識を高めている。ホームにはあんしんセンターを利用している人や、後見人制度を活用している入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時には重要事項説明書や契約書の内容を一つ一つ解りやすい表現に言い換えながら説明し理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の申し立てを、ホーム管理者の他、横浜市の苦情受付連絡先を契約書に記載している。面会時には積極的に声掛けを行い話し易い雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロアー会議を行い、業務改善についての話し合いや入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月2回法人内各部署の代表者による会議で、それぞれの部署の状況を情報交換できる場がある。また、法人本部には常時相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修・隔月の勉強会で自己研鑽に努めている。また、各自キャリアを自覚し、後輩へ指導する事を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議の委員として、地域の同業者と交流する機会を設けている。同法人のグループホームとも情報交換を積極的に行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず本人と会う機会を持ち、毎日の過し方等の聞き取りを行っている。また、ホームの生活を伝える事により、より安心感を得られるように努めている。ホームには体験入居制度があり、本人がホームの生活を体感できる期間がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する際は、本人及び家族にホームを見学していただき、その上で家族が困っている事に耳を傾け、安心して頂けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方が生活していくうえでどのような支援が必要なのか、また、家族が何を求めているのかを考慮し、当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているのかを考え、必要に応じて他種機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む中で、（身支度・入浴・掃除・食事の支度等）出来ることは本人に行っていただき、職員は足りない所をサポートするような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や、行事、外出・外泊など家族にも積極的参加して頂き、本人を支援する輪作りの努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、これまで本人が生活してきた馴染みの物を持ち込みいただき、生活空間の中に取り入れている。家族や友人との面会及び外出も推奨している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場面で、散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わり合える時間を設定している。入居者同士で上手くコミュニケーションが取れない場合は職員が間に入り、よりよい関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の郵便物には一筆添えるなどして、これまでの関係を長く継続できるような関係作りに配慮している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の希望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい物行きたい所など、日々の会話から聞き取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の情報として、生活歴の聞き取りをしており、人生の歩みを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活記録と申し送りで、入居者の一日の様子を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者及び、家族からの要望や職員からの聞き取りと共に、ひとり一人の適性にあったプランを作成実行している。支援経過の検討を行い常に入居者にとって適正なプランなのかを検討している。多数の職員が集まるフロア会議で状況確認を行い、職員個々の意見をサービス内容に反映させている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子や夜間の様子を記録に残し、特記事項については申し送るようにしている。サービスの経過を話し合い、その方に合った取り組みを検討している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ職員や、管理栄養士に相談し、リハビリの方法や、食事摂取困難な方への対応の参考にしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーマーケットやコンビニ・美容室などを利用する為、本人と共に外出したり、自然環境豊かな中での散歩が楽しめるよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行っている。入居後は、月1回、カメラ診療所受診で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内事業所との医療連携を行っており、医療連携看護師による、定期的な健康管理を行っている。入居者の健康管理については、何時でも相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を家族と一緒に病院関係者に伝えている。また退院が近くなってきたときには、家族の許可を取り、病院関係者より入院中の様子や退院後の注意事項の聞き取りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については必要に応じて、説明を行っている。H22年4月に緩和ケアの訪問医療を受けている入居者の看取りを行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内勉強会に参加し、急変時の対応に付いて知識を高めている。勉強会ではAED使用方法や、救急蘇生法の実践を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽出張所協力の下、年2回の防災訓練を行なっている。訓練では地域の方・入居者も参加し、通報・消火・避難誘導の訓練を行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとり一人の人格を尊重した対応には常日頃から、フロア会議申し送り等を通じ職員の言葉遣いや接し方について細心の注意を払っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行うときには本人の要望に耳を傾け、本人の決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示し、選んでいただくなどの工夫をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをするときには、気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声かけを心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子から、その方の好む色や組み合わせを把握し、日常の洋服選びでは、気持ちよく過せる着回しを提案している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは入居者と職員一緒に行っている。基本の献立はあるが、個別に好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が出来る様配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を取りにくい方には好みの飲み物を提供したり、少量を数回に分けて勧めている。食事量の少ない方には声かけや介助を行い、食間におやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な方には介助を行なっている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や申し送りで排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。必要な方には昼夜、トイレの声かけを行い失禁予防に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	粉末植物繊維の提供や水分補給・冷たい牛乳の摂取など、その方に合った方法を提供している。運動の足りない方には散歩を促している。それでも改善しない方には医師に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	浴室や脱衣所の温度に気を配っている。入浴時間については、入居者の希望にできるだけ添えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調には気を配り、就寝しやすい温度を心がけている。また、リビングで皆様と過す時、自室で一人で過す時を自由に選択する事が出来る環境作りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より薬が処方された時は、薬の内容を申し送り、職員へ効用を確認するようにしている。服薬チェック表への記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会やクリスマス会等、催事行事を行なっている。また縫い物が好きな人には針仕事を、家事の得意な方には台所仕事を行っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下予防と共に季節を実感する機会を提供している。入居者の希望する外出先が実現困難な場所の時は家族に協力をお願いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的にお預かりしているが、自己管理を希望されている方には家族と相談の上、幾らか所持して、買い物の際には自分でレジの支払いを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの郵便物は速やかにご本人に渡している。家族と本人の希望で携帯電話を所持している入居者がいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝と昼とに掃除を行い清潔の維持に努めている。カーテンの活用や、夏はよしずを利用し、時間や気候に即した外光管理をお行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブル椅子の他、ソファがあり、入居者が思い思いに過している。共有部分でも一人になる場があり、自由に過している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器や家具、家族写真など持込していただき今までの生活との繋がりを身近に感じる事ができるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手摺が設置され、入居者が一人で安全に生活出来るようにしてある。ADLによっては職員が歩行の介助を行っている。		

